

## 札幌市立上白石小学校の取組（第 5 学年の実践）

### 1. 研究のねらい

読書に対する意識を高めるとともに、より魅力ある学校図書館にしていくために自分たちができることを考え、実践していこうとする態度を養う。

- ・「読み聞かせの会」の準備を通して本への興味・関心を高める。  
(中央図書館では豊富な本の中から「6年生に紹介したい本」を選ぶ活動を行う。)
- ・見学してきたこと(中央図書館で工夫している点を見つけること)をもとに、使いやすい学校図書館にするためのアイデアを出し合う。

### 2. 取組内容

#### (1) 「読み聞かせの会」と「6年生に紹介したい(目的に合う)本を選ぶ活動」について

##### ① 6年生に紹介したい本選び

10月下旬に行われた6年生との「読み聞かせの会」では、ブックトークをすることになっていた。中央図書館では、豊富な本の中からブックトークに使いたい本選びを行った。授業では、図書館の配架と本の探し方、分類法などについて、中央図書館の方からお話をいただいたのち、本選びを行った。早めに本を選んだ児童が多かったが、講堂に戻った子どもたちは、自分が借りた本に早速目を通していった。

学校に戻ってから1週間程度の時間があつたので、借りてきた本の“何”を“どのように”紹介するか、各自検討し、準備した。

##### ② ブックトークの様子から

当日は、5、6年生合わせて4名程度のグループを作り、ブックトークを行った。写真は、5年児童が星の本を紹介しているところである。6年生が興味深そうに聞いていたことが印象的であった。



#### (2) 使いやすい学校図書館にするための工夫を見つけよう

##### ① 中央図書館が工夫していることを見つけ出す

上記の本選びと合わせて、「中央図書館では、どのような工夫がされているのか」について調べることをもう1つの目的として位置付けた。本を選んだ後、再度図書室へ行った子どもたちは、「(シリーズ物の) おすすめコーナーがあった」「季節に合わせて本を紹介するコーナーがあった」といった中央図書館の工夫点を見つけていた。

## ② 図書館改造計画の実際

子どもたちは魅力的な学校図書館にするために、学校に戻ってから本の紹介カードを作成した。これは、中央図書館で見つけた工夫点と国語の教科書を参考にして作成したものである。今後は、これらの作品を学校図書館に掲示して、他の学年にも本の魅力を伝えていきたいと考えている。



## 3. 成果と課題

### (1) 成果

身近に図書館がない環境にある子どもたちにとって、中央図書館で本を借りること自体が貴重な経験であり本に親しむきっかけとなった。子どもたちは本を選んだ後、講堂に戻ってきてすぐに本に目を通していた様子からも、借りた本に対する関心の高さが伺えた。今回は、ブックトーク用の本を選ぶことが目的の1つだったため、多くの本の中から選ぶことができたことは子どもたちにとって喜びであったようだ。今まで何気なく見てきた分類番号についても説明していただいたので、今後の学校図書館利用に役立つと考える。

また、本校の課題である学校図書館の環境改善に向けて、国語の「図書館改造計画」の一環として「中央図書館が工夫していることを探そう」をもう1つの目的とした。子どもたちは、予想以上にさまざまな工夫点を見つけ出していた。子どもたちが見つけた工夫点は、本校の図書館の改善点であることから、本校の図書館司書とも連携を取りながら、この冬休みから学校図書館整備に着手したところである。



### (2) 課題

今回の学習は中央図書館での授業以外の部分でも、専門的な立場からアドバイスいただけただろうと考えられる場面がいくつかあった。例えば「POPを作成する授業」「読書活動に関わる授業」の部分だが、もし講師を学校に派遣してもらうことが可能であり、そのような手続きをとっていただければ、中央図書館でなければできない学習と、学校派遣で可能な学習とを合わせて計画することができ、学習がより深まったのではないかと考える。また、今回は自校の学校図書館の環境改善が大きなテーマとなったが、中央図書館の膨大な蔵書数に触れることによって、学校図書館にはない魅力を感じることができるよう計画を立てることも可能であったかもしれない。